

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名 DB-X200S

会社情報

会社名 株式会社エムアイオージャパン

住所 〒664-0001 兵庫県伊丹市荒牧 3-17-20

電話番号 072-781-3377

FAX 番号 072-781-3357

電子メールアドレス info@miojp.co.jp

推奨用途及び使用上の制限 グリーストラップの油脂分解及び消臭

2 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性 区分 2

又は眼刺激性

※上記に記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H319 強い眼刺激

注意書き

安全対策

P264 取扱後はよく手を洗うこと。

P280 保護眼鏡または保護面を着用すること。

応急措置

P305+P351+P338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337+P313 目の刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。

廃棄

P501 内容物、容器を都道府県の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
組成及び成分情報

混合物

化学物質名又は一般名	含有量 (%)	CAS No.
水	97～99%	7732-18-5
バクテリア	非公開	—
非イオン界面活性剤	1～3%	非公開
金属封鎖剤	微量	非公開
染料	非公開	非公開

4 応急処置

吸入した場合	呼吸が困難な場合、被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは医師の診断／手当てを受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。気分が悪いときは医師の診断／手当てを受ける。
飲み込んだ場合	被災者に意識がある場合は、水でよく口を洗わせる。無理に吐き出させない。被災者に意識のない場合は口から何も与えてはならない。また吐かせてもならない。安静にして直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗う。気分が悪いときは医師の診断／手当てを受ける。

5 火災時の措置

消火剤	水、泡、粉末、二酸化炭素など
使ってはならない消火剤	データなし
特有の消化方法	本製品は不燃性であり、周辺火災の場合は、移動可能な容器は安全に行える限り火災場所から搬出する。移動不可能な場合は、安全距離から散水冷却水で容器の破損を防ぐ。消火後も水を用いて十分に容器を冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具 および予防措置	漏出液の処理時には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣を着用すること。こぼれた場合は滑りやすいため足元に注意する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照
環境に対する注意事項	河川、湖沼、土壤に大量に排出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	土や砂や等の吸着材に吸着させ、密閉容器に回収する。
二次災害の防止策	漏出場所に関係者以外の立ち入りを禁止する。

処理時には必ず保護具を着用する。

7 取り扱い及び保管上の注意

取扱い	皮膚や眼の接触を避ける。適切な保護服や保護眼鏡を着用する。 取扱時は飲食、喫煙はしない。取扱後はよく手を洗う。
保管	直射日光を避け、換気の良い冷暗所かつ凍結しない場所に保管する。容器の破損を防ぐ。

8 ばく露防止及び措置

設備対策	取扱い場所には手洗い場などの手／顔などを洗浄できる設備を設置する。
管理濃度	設定されていない。
許容濃度	設定されていない。
保護具	
呼吸用保護具	必要に応じて保護マスクを使用する。
手の保護具	ゴム製またはビニール製の保護手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡やゴーグル等を使用する。
皮膚および身体の一部の保護具	保護服を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観	青色
臭い	かすかに土壌臭
PH	6.0～8.0
融点・凝固点	データなし
沸点	データなし
引火点	データなし（本製品は水系）
蒸発速度	データなし
燃焼性	データなし
燃焼範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重（相対密度）	データなし
溶解度	水に溶解
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度	水と同様

10 安定性及び反応性

反応性	データなし
-----	-------

安定性	通常の取り扱いでは安定。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	直射日光の当たる場所、40℃以上の高温になる場所、凍結
危険有害な分解生成物	燃焼の際に二酸化炭素、一酸化炭素が生成される。

11 有害性情報

急性毒性

経口

ラット LD50 > 2,000mg/kg (界面活性剤)

ラット LD50 = 2,150mg/kg (キレート剤)

上記データおよび含有率から、急性毒性(経口)は区分に該当しないとした。

皮膚腐食性・刺激性

入手可能な情報が不足しているため本製品としては分類できない。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

区分 2

呼吸器感作性

入手可能な情報が不足しているため本製品としては分類できない。

皮膚感作性

入手可能な情報が不足しているため本製品としては分類できない。

生殖細胞変異原性

入手可能な情報が不足しているため本製品としては分類できない。

特定標的臓器・単回ばく露

入手可能な情報が不足しているため本製品としては分類できない。

特定標的臓器・反復ばく露

入手可能な情報が不足しているため本製品としては分類できない。

吸引性呼吸器有害性

入手可能な情報が不足しているため本製品としては分類できない。

12 環境影響情報

生体毒性

水生環境有害性 (急性)

データなし

水生環境有害性 (長期間)

データなし

残留性・分解性

データなし

生体蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

データなし

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄物においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託する。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託する。

14 輸送上の注意

国際規制

国連分類 非該当

国内規制

国連番号 非該当

国連番号 非該当

国内法に従う

15 適用法令

労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法、化学物質排出把握管理促進法、消防法、船舶安全法、航空法の適用はない。

16 その他の情報

参考文献等

GHS 分類ガイダンス

経済産業省

GHS 対応ラベルおよび SDS の作成マニュアル

厚生労働省医薬食品局審査管理課化学物質安全対策室

NITE 化学物質総合情報提供システム

独立行政法人 製品評価技術基盤機構

各原料メーカーの SDS

【注意】

本 SDS は作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分でない可能性がありますので、取り扱いには十分にご注意ください。

記載内容について新しい知見などがある場合には必要に応じて変更をお願いします。